ハマ街ビト

横浜には、独自のサービスや技術の強みを生かした魅力的な企業、団体が数多く存在しています。ここでは、LTR 独自の視点で他社の参考になる先駆け的な取り組みや、新たな挑戦をする企業とヒトをピックアップ。今回は、経営者にとっても必要な「精神力」、組織が団結することで発揮される「組織力」などをテーマにしたインタビュー記事をお届けします。

地域密着型の「まめの木薬局」（戸塚区戸塚町）。店長の遠藤 好彦（えんどう・よしひこ）さんは、薬剤師でありながらアンプティサッカー（上肢または下肢に切断障がいを持った選手がプレーするサッカー）の選手としても、ワールドカップに出場するなど大活躍しています。18 歳のとき事故で重傷を負い、右脚を切断。「ずっと義足を隠して過ごしていた」という遠藤さんですが、34 歳でアンプティサッカーと出会ってから人生が一変、経営者としてのマインドにも大きな影響があったそうです。そこで今回は、経営者とサッカー選手という二つの立場から、精神力や組織力などをテーマにお話をお聞きしました。

まめの木薬局
店長・薬剤師 遠藤 好彦さん
（アンプティサッカークラブ「ＦＣアウボラーダ」所属）

自らの姿を「見せる」ことで高まる組織力

――「まめの木薬局」はオープン以来、「人（患者さま）が薬剤師に会いに来る薬局」という点を視野に入れ、地域密着型の薬局を目指してきたそうですね。

【遠藤】はい。薬局で薬を処方するのは当たり前。大事なのは、薬や体のことを気軽に話せる薬剤師の存在です。「ここに来れば、あの薬剤師に会える」といった、安心感のある場所にしたいと思っています。同時に力を入れているのは、病気になりにくい体作りを考えた予防治療の提案。そのためにも、一人ひとりの方と向き合う時間が必要なんです。

戸塚駅西口から徒歩 8 分。グリーンを基調とした看板が目印

元気で健康な生活をサポートする商品も取り揃えている

――薬剤師でありながら経営者、アンプティサッカーでは、2018 年にワールドカップに初出場、2022 年に出場した際は主将としてチームを牽引されました。組織やチームのリーダーとして、心がけていることがあれば教えてください。

薬局内にはサムライブルーのユニフォームも！

【遠藤】私は、強いリーダーシップを発揮するタイプではありません。ただ、どんな場面でも「最大限の力を出そう」という気持ちで動いています。ありがたいことに薬局では、サッカーの活動が加わってからも理解してくれるメンバーの存在があり、私も力一杯動くことができるんです。その姿を見たメンバーも、自ら考えながら動いてくれて。それが次第に、大きな団結力（組織力）を生んでいるように感じています。

――そこには、強い信頼関係がありそうですね。コミュニケーションの面で（薬局、サッカーチームともに）工夫していることはありますか？

【遠藤】強いて言えば「メンバーを見る」こと。そうすると、日々の変化にも素早く対応できます。たとえばアンプティサッカーの日本代表チームでは、所属クラブから 1 人で参加している若いメンバーもいたので、積極的に声をかけました。話の内容は、サッカーに関係ないゲームのことでしたが（笑）。